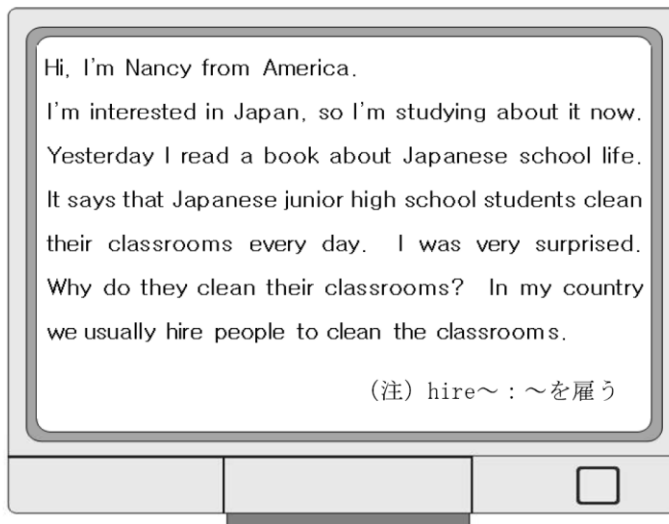


### 3 問題3における調査結果

#### 解答類型と結果

あなたは、インターネットの意見交換の掲示板に、アメリカ人の中学生ナンシー（Nancy）による次のような書き込みを見つけました。これをよく読んで、あとの問いに答えなさい。



- (1) この英文の内容に関する次の質問に日本語で答えなさい。  
 [質問] ナンシーは日本の中学校での生活のどんなことに驚いたのですか。

#### 【解答類型ごとの反応率】

通過率：58.3%

類型番号	解答類型 (◎：正答，○：準正答)	反応率 (%)	
◎1	「毎日」「生徒が」「教室を」「掃除する」の要素を全て記述しているもの	42.6	55.0
◎2	「生徒が」「教室を」「掃除する」の要素を全て記述しているもの	12.4	
○3	「生徒が」「教室を」「掃除する」の要素を全て記述しているが、「毎日」の要素が不適切であるもの	0.1	3.3
○4	「生徒が」「掃除する」の要素を記述しているが、「教室を」の要素は記述していないか不適切であるもの	3.2	
5	「教室を」「掃除する」の要素を記述しているが、「生徒が」の要素は記述していないか不適切であるもの	18.3	
6	「掃除する」の要素を記述しているが、「生徒が」「教室を」の要素は記述していないか不適切であるもの	2.6	
7	本文に関連する内容を記述しているが、ナンシーが驚いたことは何かという問いに対して不適切な内容を記述しているもの	2.7	
9	上記以外の解答	7.5	
0	無解答	10.5	

通過率 58.3%のうち、正答と準正答はそれぞれ 55.0%、3.3%であった。誤答のうち、類型 5 と無解答はそれぞれ 18.3%、10.5%であった。

【解答類型ごとの解答例】

類型番号	解答例 (◎：正答, ○：準正答)	判断の視点
◎1	日本の中学生は、毎日自分たちの教室を掃除すること	日本の掃除の様子が分かる全ての要素が「毎日」も含めて記述している。
◎2	中学生が自分たちの教室をそうじしていること	日本の掃除の様子が分かる全ての要素が記述している。
○3	日本の生徒は、教室のそうじを最後の日に自分達でやることに驚いた	日本の掃除の様子として「毎日」の意味を誤って記述している。
○4	クラスメイト皆で毎日そうじをしていたこと	日本の掃除の様子として、「誰が」の要素は明確であるが、「どこを」が記述していない。
5	何故教室をきれいにするのか？	日本の掃除の様子が分かる要素での1つである「誰が」が記述されていないが、その他の必要な要素は記述している。
6	毎日そうじをすること	「誰が」、「どこを」の要素が記述していない。
7	そうじをする人をやとっていること	日本の中学生の生活の記述ではない。
9	日本の学校に生徒の教室がたくさんあること	本文に記述がない。

(2) ナンシーが掲示板に書いていることについて、あなたはどんな感想や意見を持ちましたか。15語以上の英語で書きなさい。文の数はいくつになってもかまいません。ただし、符号は語数に数えないこととします。

【解答類型ごとの反応率】

通過率：40.2%

類型番号	解答類型 (◎：正答, ○：準正答)	反応率 (%)
◎1	英文の内容に関連した意見や感想を15語以上で書いているもの	10.8
○2	英文の内容に関連した意見や感想を15語以上で書いているが、文法・語法等の誤りがみられる(文構造等の誤りはみられない)もの	29.4
3	英文の内容に関連した意見や感想を14語以下で書いているもの	0.8
4	英文の内容に関連した意見や感想を14語以下で書いているが、文法・語法等の誤りがみられる(文構造等の誤りはみられない)もの	2.3
5	英文の内容に関連はしているが意見や感想ではないことを書いているもの	0.9
6	英文の内容と関連のないことや矛盾することを書いているもの、又は書いていることの内容が矛盾しているもの	6.2
7	15語以上で書いているが、文構造等の誤りがみられるもの	14.0
8	14語以下で書いており、文構造等の誤りがみられるもの	4.5
9	上記以外の解答	1.5
0	無解答	29.5

通過率40.2%のうち、正答と準正答はそれぞれ10.8%、29.4%であった。誤答のうち、類型7と無解答はそれぞれ14.0%、29.5%であった。

【解答類型ごとの解答例】

類型 番号	解答例 (◎ : 正答, ○ : 準正答) 判断の視点
◎ 1	We clean our classroom every day. I think that cleaning our classroom is very important for us. (17 語) 17 語(15 語以上)で本文の内容に対する自分の考えを含めた英文を記述している。
○ 2	I was very surprised. Because she says America is hire people to clean the classrooms. 15 語(15 語以上)で本文の内容に対する感想を記述している。ただし, 2文目に不適切な主語や不必要な be 動詞の追加など, 文法・語法等の誤りがある
3	I think Japanese school life is better than American school life. (11 語) 本文の内容に対する自分の考えを記述しているが, 11 語(14 語以下)である。
4	I was very suprised. I think good idea it. (9 語) 単語のつづり誤りは不問。9語(14 語以下)で本文の内容に対する感想と自分の考えを記述している。また, 2文目の I think 以降に文構造の誤りがある。
5	I'm interested in America. So I'm studying about it now. I read a book yesterday. It says that Japanese junior high school students clean then classrooms everyday. (26 語) 本文をほぼ書き写しており, 本文の内容に対する意見や感想とはいえない。
6	I read it. I was very surprised at American students usually clean the classrooms. I think that it's important for us to clean the classrooms. (25 語) 2文目の内容が本文の内容に反している。
7	I like the classroom. So I clean the classroom. Because after clean make me happy. (15 語) 15 語(15 語以上)で記述しているが, 3文目に主語がないなどの文構造の誤りがある。
8	I don't know hire people to clean the classrooms. (9 語) 9語(14 語以下)で記述しており, I don't know 以降に主語がないなどの文構造等の誤りがある。
9	ナンシーは日本の学校生活に驚いていました。 日本語で記述している。

## 2. 学習評価の在り方について

# 観点別学習状況の評価について

- 学習評価には、児童生徒の学習状況を検証し、結果の面から教育水準の維持向上を保障する機能。
- 各教科においては、学習指導要領等の目標に照らして設定した観点ごとに学習状況の評価と評定を行う「目標に準拠した評価」として実施。  
⇒きめの細かい学習指導の充実と児童生徒一人一人の学習内容の確実な定着を目指す。

## 学力の3つの要素と評価の観点との整理

【現行】

### 学習評価の4観点

関心・意欲・態度

思考・判断・表現

技能

知識・理解

【以下の3観点に沿った整理を検討】

### 学力の3要素 (学校教育法) (学習指導要領)

知識及び技能

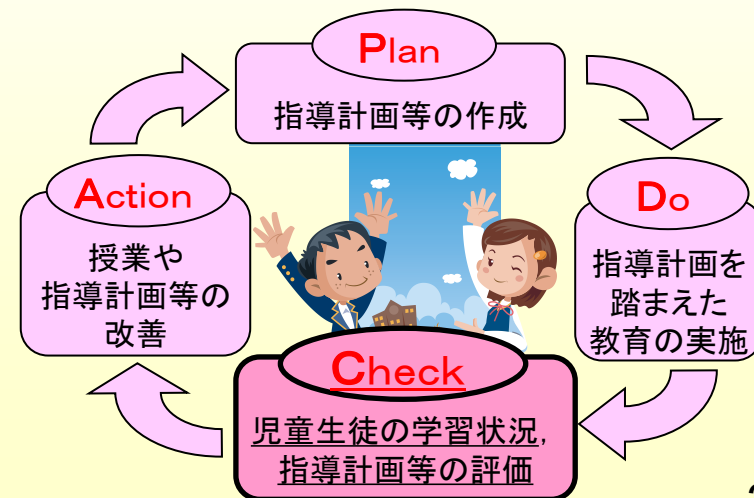
思考力・判断力  
・表現力等

主体的に学習に  
取り組む態度

## 学習指導と学習評価のPDCAサイクル

- 学習評価を通じて、学習指導の在り方を見直すことや個に応じた指導の充実を図ること、学校における教育活動を組織として改善することが重要。

指導と評価の一体化



# 多様な評価方法の例

児童生徒の学びの深まりを把握するために、多様な評価方法の研究や取組が行われている。

## 「パフォーマンス評価」

知識やスキルを使いこなす(活用・応用・統合する)ことを求めるような評価方法。論説文やレポート、展示物といった完成作品(プロダクト)や、スピーチやプレゼンテーション、協同での問題解決、実験の実施といった実演(狭義のパフォーマンス)を評価する。

## 「ルーブリック」

成功の度合いを示す数レベル程度の尺度と、それぞれのレベルに対応するパフォーマンスの特徴を示した記述語(評価規準)からなる評価基準表。

項目	尺度	IV	III	II	I
項目		…できる …している	…できる …している	…できる …している	…できない …していない

記述語

ルーブリックのイメージ例

## 「ポートフォリオ評価」

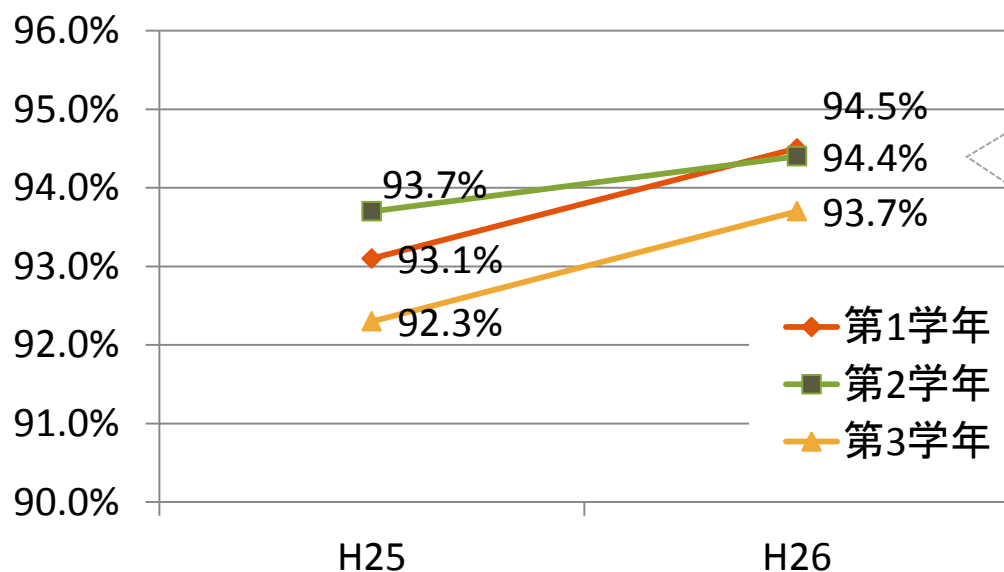
児童生徒の学習の過程や成果などの記録や作品を計画的にファイル等を集積。そのファイル等を活用して児童生徒の学習状況を把握するとともに、児童生徒や保護者等に対し、その成長の過程や到達点、今後の課題等を示す。

# 英語 中学校におけるパフォーマンス等の評価の現状

- 「話すこと」や「書くこと」の能力を評価するスピーキングテストやライティングテスト等を実施している学校は、第1学年では94.5%で、平成25年度の93.1%から1.4ポイント上昇、第2学年では94.4%で、平成25年度の93.7%から0.7ポイント上昇、第3学年では93.7%で、平成25年度の92.3%から1.4ポイント上昇している。

## パフォーマンステストの状況

スピーキングテストやライティングテスト等のパフォーマンステストの実施状況



具体的な実施内容	
スピーキングテスト	スピーチ
	インタビュー(面接)
	プレゼンテーション
	ディスカッション
	ディベート
ライティングテスト(エッセイ等)	
その他	

# 3. 新しい学習指導要領等 が目指す姿



## 新しい時代に必要となる資質・能力の育成

①「何を知っているか、何ができるか(個別の知識・技能)」

各教科等に関する個別の知識や技能など。身体的技能や芸術表現のための技能等も含む。

②「知っていること・できることをどう使うか(思考力・判断力・表現力等)」

主体的・協働的に問題を発見し解決していくために必要な思考力・判断力・表現力等。

③「どのように社会・世界と関わり、よりよい人生を送るか(人間性や学びに向かう力等)」

①や②の力が働く方向性を決定付ける情意や態度等に関わるもの。以下のようなものが含まれる。

- ・主体的に学習に取り組む態度も含めた学びに向かう力や、自己の感情や行動を統制する能力など、いわゆる「メタ認知」に関するもの。
- ・多様性を尊重する態度と互いの良さを生かして協働する力、持続可能な社会作りに向けた態度、リーダーシップやチームワーク、感性、優しさや思いやりなど、人間性に関するもの。

## 何ができるようになるか

### 育成すべき資質・能力を育む観点からの 学習評価の充実

#### 何を学ぶか

##### 育成すべき資質・能力を踏まえた 教科・科目等の新設や目標・内容の見直し

- ◆ グローバル社会において不可欠な英語の能力の強化(小学校高学年での教科化等)や、我が国の伝統的な文化に関する教育の充実
- ◆ 国家・社会の責任ある形成者として、また、自立した人間として生きる力の育成に向けた高等学校教育の改善(地理歴史科における「地理総合」「歴史総合」、公民科における「公共」の設置等、新たな共通必修科目の設置や科目構成の見直しなど抜本的な検討を行う。) 等

#### どのように学ぶか

##### アクティブ・ラーニングの観点からの 不断の授業改善

- ◆ 習得・活用・探究という学習プロセスの中で、問題発見・解決を念頭に置いた深い学びの過程が実現できているかどうか
- ◆ 他者との協働や外界との相互作用を通じて、自らの考えを広げ深める、対話的な学びの過程が実現できているかどうか
- ◆ 子供たちが見通しを持って粘り強く取り組み、自らの学習活動を振り返って次につなげる、主体的な学びの過程が実現できているかどうか

# 「初等中等教育における教育課程の基準等の在り方について」諮問(平成26年11月)の概要

## 趣旨

- ◆ 子供たちが成人して社会で活躍する頃には、生産年齢人口の減少、グローバル化の進展や絶え間ない技術革新等により、社会や職業の在り方そのものも大きく変化する可能性。
- ◆ そうした厳しい挑戦の時代を乗り越え、**伝統や文化に立脚し、高い志や意欲を持つ自立した人間として、他者と協働しながら価値の創造に挑み、未来を切り開いていく力が必要。**

- ◆ そのためには、教育の在り方も一層進化させる必要。
- ◆ 特に、学ぶことと社会とのつながりを意識し、「何を教えるか」という知識の質・量の改善に加え、「どのように学ぶか」という、**学びの質や深まりを重視することが必要。**また、学びの成果として「**どのような力が身に付いたか**」という視点が重要。

## 審議事項の柱

### 1. 新しい時代に求められる資質・能力を踏まえた、初等中等教育全体を通じた改訂の基本方針、学習・指導方法の在り方（アクティブ・ラーニング）や評価方法の在り方等

### 2. 新たな教科・科目等の在り方や、既存の教科・科目等の目標・内容の見直し

- グローバル社会において求められる英語教育の在り方（小学校における英語教育の拡充強化、中・高等学校における英語教育の高度化）
- 国家及び社会の責任ある形成者を育むための高等学校教育の在り方
  - ・主体的に社会参画するための力を育てる新たな科目等
  - ・日本史の必修化の扱いなど地理歴史科の見直し
  - ・より高度な思考力等を育成する新たな教科・科目
  - ・より探究的な学習活動を重視する視点からの「総合的な学習の時間」の改善
  - ・社会的要請も踏まえた専門学科のカリキュラムの在り方など、職業教育の充実
  - ・義務教育段階での学習内容の確実な定着を図るための教科・科目等 など

### 3. 各学校におけるカリキュラム・マネジメントや、学習・指導方法及び評価方法の改善支援の方策

## グローバル社会で求められる力の育成

◆ グローバル化する社会の中で、言語や文化が異なる人々と主体的に協働していくことができるよう、外国語で躊躇せず意見を述べ他者と交流していくための力や、我が国の伝統文化に関する深い理解、他文化への理解等をどのように育むべきか。特に英語の能力について、例えば以下のような点をどのように考えるべきか。

- (1) 小学校から高等学校までを通じて達成を目指すべき教育目標を、「英語を使って何ができるようになるか」という観点から、四技能に係る一貫した具体的な指標の形式で示すこと
- (2) 小学校では、中学年から外国語活動を開始し音声に慣れ親しませるとともに、高学年では、学習の系統性を持たせる観点から教科として行い、身近で簡単なことについて互いの考えや気持ちを伝え合う能力を養うこと
- (3) 中学校では、授業は英語で行うことを基本とし、身近な話題について互いの考えや気持ちを伝え合う能力を高めること
- (4) 高等学校では、幅広い話題について発表・討論・交渉などを行う能力を高めること

## 高等学校教育

◆ 中央教育審議会における高大接続改革に関する議論や、これまでの関連する答申等も踏まえつつ、高校生が、**国家・社会の責任ある形成者として、自立して生きる力を身につける**ことができるよう、例えば以下のような課題についてどのように改善を図るべきか。

- (1) 今後、国民投票年齢が満18歳以上となることなども踏まえ、国家・社会の責任ある形成者となるための教養と行動規範や、主体的に社会に参画し自立して社会生活を営むために必要な力を、実践的に身に付けるための新たな科目等の在り方
- (2) 日本史の必修化の扱いなど地理歴史科の見直しの在り方
- (3) より高度な思考力・判断力・表現力等を育成するための新たな教科・科目の在り方
- (4) より探究的な学習活動を重視する視点からの「総合的な学習の時間」の改善の在り方
- (5) 社会的要請を踏まえた専門学科のカリキュラムの在り方など、職業教育の充実の在り方
- (6) 義務教育段階での学習内容の確実な定着を図るための教科・科目等の在り方

## 幼児教育

- 子供の発達の早期化をめぐる現象や指摘、幼児教育の特性等を踏まえ、幼児教育と小学校教育をより円滑に接続させていくためには、どのような見直しが必要か。

## 体育・健康

- 子供の体力等の現状を踏まえつつ、2020年のオリンピック・パラリンピック開催を契機に、子供たちの運動・スポーツに対する関心や意欲の向上を図るとともに、体育・健康に関する指導を充実させ、運動する習慣を身に付け、健康を増進し、豊かな生活を送るための基礎を培うためには、どのような見直しが必要か。

## 特別支援教育

- 障害者の権利に関する条約に掲げられたインクルーシブ教育システムの理念を踏まえ、全ての学校において、発達障害を含めた障害のある子供たちに対する特別支援教育を着実に進めていくためには、どのような見直しが必要か。

その際、特別支援学校については、小・中・高等学校等に準じた改善を図るとともに、自立と社会参加を一層推進する観点から、自立活動の充実や知的障害のある児童生徒のための各教科の改善などについて、どのように考えるべきか。

## その他の課題

- 社会の要請等を踏まえ、教科等を横断した幅広い視点からの取組が求められる様々な分野の教育の充実のための方策について、関係する会議等におけるこれまでの議論の状況等を踏まえつつ、どのように考えるべきか。
- 各教科等の教育目標や内容を、初等中等教育を通じて一貫した観点からより効果的に示すためにどのような方策が考えられるか。また、学年間や学校種間の教育課程の接続の改善を図ることについて、現在中央教育審議会でご議論いただいている小中一貫教育に関する検討状況も踏まえつつ、どのように考えるべきか。

## ＜社会に開かれた教育課程＞

- ① **社会や世界の状況を幅広く視野に入れ、よりよい学校教育を通じてよりよい社会づくりを目指すという理念を持ち、教育課程を介してその理念を社会と共有していくこと。**
- ② **これからの社会を創り出していく子供たちが、社会や世界に向き合い関わり合っていくために求められる資質・能力とは何かを、教育課程において明確化していくこと。**
- ③ **教育課程の実施に当たって、地域の人的・物的資源を活用したり、放課後や土曜日等を活用した社会教育との連携を図ったりし、学校教育を学校内に閉じずに、その目指すところを社会と共有・連携しながら実現させること。**

主体性・多様性・協働性  
学びに向かう力  
人間性 など

どのように社会・世界と関わり、  
よりよい人生を送るか

どのように学ぶか  
(アクティブ・ラーニング)

学習評価の充実  
カリキュラム・マネジメントの充実

何を知っているか  
何ができるか

個別の知識・技能

知っていること・できる  
ことをどう使うか

思考力・判断力・表現力等

# 学習指導要領改訂に係る議論に関するこれまでの経過と今後のスケジュール

平成26年2月～9月 英語教育の在り方に関する有識者会議

平成26年11月 中央教育審議会総会  
「初等中等教育における教育課程の基準等の在り方について」諮問

平成26年12月 教育課程部会  
・教育課程企画特別部会を設置

平成27年1月 教育課程企画特別部会（第1回）

新しい時代にふさわしい学習指導要領の基本的な考え方や、  
教科・科目等の在り方、学習・指導方法及び評価方法の在り  
方等に関する基本的な方向性について、計14回審議

平成27年8月 教育課程企画特別部会（第14回）  
教育課程部会  
・「論点整理」をとりまとめ

平成27年  
秋以降 論点整理の方向に沿って学校段階等別・教科等別に専門的に検討  
（外国語ワーキンググループ設置・議論）

平成28年 教育課程部会又は教育課程企画特別部会における議論を踏まえて、  
審議のまとめ

平成28年度内 中央教育審議会として答申

（小学校は32年度から、中学は33年度から全面实施予定。高校は34年度から年次進行により実施予定。）